

# CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版  
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)

## 1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	新潟食料農業大学 新潟キャンパス 北区 島見町字上割地769番外25筆 第一種中高層住居専用地域、法22条指定区域 学校, 2017年11月 予定 25,344.97 m <sup>2</sup> 1,578.71 m <sup>2</sup> 2,958.50 m <sup>2</sup> 地上2階 S造 実施設計段階評価 2017年2月17日	
---	---	--

## 2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{46.9}{35.0} = 1.3$
S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B: ★★ C: ★		

## 3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.5		バリアフリー	3.0
			維持管理	4.5
			更新性	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	2.8		耐震・免震	3.0
			信頼性	2.6
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.3		建物の熱負荷抑制	5.0
			自然エネルギー利用	3.5
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	3.3		節水	4.0
			リサイクル材の使用	1.0
			再利用可能性向上	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	1.5		生物環境の保全・創出	1.0
			敷地内温熱環境の向上	2.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	3.5		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	4.0

## 4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- ・廊下や開口部はゆとりのある設計を行い、バリアフリーに配慮した。
- ・内装仕上げ材はメンテナンス性に配慮し、設備シャフトには点検口を設けるなど更新性に配慮した。
- ・敷地内は積極的に緑化を行い、雨水排水負荷の低減や温熱環境の向上に配慮した。
- ・節水型衛生設備やLED照明、Low-E複層ガラス、全熱交換換気扇などを採用することにより、省エネルギー化を図った。
- ・構造体と仕上げ材を簡単に分離できる乾式工法を採用した。

# CASBEE®新潟

# 評価結果内訳

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)  
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新潟食料農業大学 新潟キャンパス	階数	地上2階
建設地	新潟県新潟市北区	構造	S造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、法22	平均居住人員	0人
気候区分		年間使用時間	0時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年11月 予定	評価の実施日	2017年2月17日
敷地面積	25,345 m <sup>2</sup>	作成者	菊地 亜美
建築面積	1,579 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	2,959 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 86%  
③上記+②以外の 86%  
④上記+ 86%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

**Q のスコア = 2.8**

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

#### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.5**

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	建物を利用する学生や職員が快適に過ごせるよう室内環境を整え、メンテナンス性や更新性などにも配慮し、長期的な利用にも耐えられる計画を行った。省エネルギー、環境負荷低減に効果のあるシステムや機器を導入することで積極的に省エネ化を図った。	
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>
大人数を収容する室は、充分な開口部と天井高さを確保し、のびのびと過ごせる空間とする。騒音、反響の抑制のため、吸音材を採用する。自然採光、自然換気を原則として、中間期は設備に頼らない建築とし	建物の出入り口部分には庇や雨が直接吹き込まないように壁を設けることで、海に近い立地に配慮している。女子便所にパウダーコーナーを設け、女子学生の要望に対応している。PS/EPSには十分な空間と点検口を設け、更新性に配	大学の校章のカラーを外観計画に取り入れ、有機的で明るく、視認性の高い計画を行った。敷地内は歩車分離を計画し、歩行者の安全を確保した。
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
外部開口部に複層Low-Eガラスを採用し、熱負荷の軽減を図った。照明はゾーン別及び人感センサーによる制御を行い、またLED照明を採用し、ランニングコストを抑制するように努めた。全熱交換換気扇を採用し、空調負荷の軽減を図	節水型衛生設備、流水擬音装置や自動水洗を採用し、ランニングコストを抑制した。床は極力ノンワックスの床材を採用し、メンテナンス性に配慮した。躯体と仕上げが容易に分離可能な乾式工法を採用し、更新	敷地内は積極的に植栽を行い、景観的な潤いと雨水処理の軽減を図り、夏期の温熱環境の向上に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される